

平成26年度事業計画

平成26年4月1日～平成27年3月31日

公益財団法人全国青少年教化協議会

平成26年度事業計画（案）目次

I 教化事業（公益目的事業1）

- 1 青少年健全育成推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 1～P. 3
 - (1) 仏教子ども会活動の推進事業・・・・・・・・・・ P. 1
 - (2) 青少年教化研修会等の開催事業・・・・・・・・ P. 1～P. 2
 - (3) 青少幼年支援ネットワーク拡充事業・・・・ P. 2～P. 3
 - (4) 教化活動広報事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 3
- 2 公益活動推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 3～P. 4
- 3 臨床仏教研究所運営事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 4～P. 5
- 4 出版事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 5～P. 6

II 表彰事業（公益目的事業2）

- 1 「正力松太郎賞」の実施・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 6
- 2 優秀表彰の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 6

III 災害支援事業（公益目的事業3）

- 1 東日本大震災復興支援事業・・・・・・・・・・・・ P. 6
- 2 国内外緊急支援事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 7

IV 管理

- 1 組織の充実・拡充・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 7
- 2 事務所移転・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 7

平成26年度事業計画

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

全国青少年教化協議会（略称・全青協）は昭和37（1962）年11月に発足し、翌昭和38（1963）年6月に文部省より財団法人として設立認可され、平成25（2013）年には創立50周年を迎えました。これもひとえに加盟教団・会員・関係各位の絶大なるご指導、ご支援のたまものと存じ、衷心より御礼申し上げます。

また、平成20年12月に「新公益法人制度」が施行され、この制度改革に伴い当財団は公益法人への移行を申請、内閣府から公益財団法人移行認定を受けたことから、平成25年12月2日に公益財団法人へ移行しました。

平成25（2013）年度は、仏教子ども会活動の推進事業をはじめとする継続事業に加え、創立50周年記念事業を中心に事業を進めてまいりました。虐待や子どもの貧困問題などの社会環境の変化をテーマとしたセミナー、臨床仏教をテーマとした連続公開講座の開催等を行いました。また、より充実した情報発信を行うために、ホームページのリニューアルを実施、併せて50周年記念式典を開催し、記念書籍を刊行いたしました。

当財団は、「仏教精神に基づき青少幼年をはじめとするすべての人々の心身と人格の健全な向上を図り、もって、社会全体の発展と安寧に寄与すること」を目的としており、平成26（2014）年度も公益財団法人としてさまざまな形で、より多くの青少幼年が仏教精神にふれ、こころ豊かに育つことを願い、時代のニーズに応じた活動に全力を挙げて取り組んでまいり所存です。

21世紀を担う青少幼年の健全育成および家庭環境の充実、寺院における公益活動の活性化、そして共生社会の創造のために、より多くの方々と手を携えながら諸事業を実施いたします。

I 教化事業（公益目的事業1）

1 青少年健全育成推進事業

(1) 仏教子ども会活動の推進事業

子どもを対象にした仏教行事（花まつり、成道会など）の推進、助成を行う。

①花まつり行事の推進、助成

加盟教団、府県・地区青少年教化協議会（略称・府県青少協）をはじめ、希望する団体等に対し、花まつりポスター等の助成を行い、花まつり子ども会の推進に努める。

②成道会全国こども大会の開催推進

全青協制定「仏教の人間像」6項目に照らしてテーマを設け、全国の寺院・団体等が開催する「成道会全国こども大会」に対しポスター、リーフレット及び読売新聞社と日本テレビからの助成品（文具）を贈る。

12月上旬の日曜日を中心に、全国100会場で合計10,000人の参加を目標に開催を呼びかける。

(2) 青少年教化研修会等の開催事業

青少年教化活動者の育成と研鑽を目的に、仏教界、各界の有識者を講師やパネリストに招いて研修会等を開

催する。

①コミュニケーション・スキルアップ及び傾聴研修会の開催

日曜学校・子ども会指導者、次代を担う若手僧侶の青少年指導スキルの向上のため、「コミュニケーション」及び「傾聴」をテーマとして専門講師による研修会を開催する。

(3) 青少年支援ネットワーク拡充事業

①青少年教化活動の調査・情報収集及び発信とNPO（市民団体）との活動連携

A) 青少年教化活動者の活動内容の調査、情報収集

仏教子ども会活動を中心に、青少年教化の活動内容について調査し、把握する。

B) 青少年を対象にした活動及び研究に関する情報収集

青少年問題に関する情報を広く収集するとともに、他団体が主催する青少年関係の研修会等にも参加し、その活動内容を把握する。また、加盟教団等が発行する教化資料の収集に努めていく。

C) 仏教団体、仏教系大学サークルの情報収集と活動の連携

青少年に関する活動を行っている仏教団体、仏教系大学の児童研究会などと連絡を取り、情報交換を行い、連携事業の展開に向けて検討を行っていく。

D) 子ども支援系NPO等との情報交換及び活動の連携

「認定非営利活動法人チャイルドライン支援センター」「公益社団法人シャンティ国際ボランティア会」をはじめ、青少年の健全育成や子育て支援について活動を行っているNPO・NGO、社会福祉協議会等との情報交換を促進し、必要に応じて活動の連携を行っていく。また、教育系の研究機関や行政との連携もあわせて促進していく。

②府県・地区青少年教化協議会及び活動寺院・団体等との活動連携

本会の事業目的・目標を達成するために府県・地区青少年教化協議会（略称・府県青少協）との活動提携、連携を強化する。また、青少年教化活動寺院との新たなネットワークづくりを目指した活動を行い、本会の組織基盤の充実を図る。

A) 「府県・地区青少年教化協議会代表者会議」の開催

各府県・地区の青少協代表者が集い、青少協活動の情報交換と本会活動との連携を図るために開催する。

B) 協働事業の推進

府県青少協及び寺院・団体が行う青少年教化活動に対し、状況に合わせて適宜協賛を行う。また、府県青少協との共催事業を企画し協働する。

C) 「心の力を養う講座」開催の推進

「心の力を養う講座」を府県青少協と協働して開催することに努め講師派遣等を行う。

D) 企業社員研修会の開催協力

協力企業の要請に応じ、若手社員を対象に「坐禅」や「写経」など仏教精神に基づく実践形式の社員研修会を開催する。

③加盟教団との活動提携、連携

加盟教団の青少年教化部門と連絡をとり、青少年教化活動の情報を収集する。教団教化部門担当者と会

議等を開催し、教化活動の提携連携を図る。そして、現今の青少幼年の現状等に即した活動に関する企画の提案を行っていく。

A) 現代教化法研究協議会（仮称）設置準備

加盟教団等に広く呼びかけ、現代社会の諸相に対応できる教化法についての研究協議会設置へ向けて準備を進める。

B) 研修会への講師の派遣

加盟教団が開催する研修会に対して、目的に応じた講師を派遣する。

C) 青少幼年教化活動に対する企画の提案及び推進協力

加盟教団に対して、こころの相談窓口や子育て支援事業等、現今の青少幼年や社会の状況に即した活動に関する企画提案を行い、活動の立ち上げ及び運営について協力する。

(4) 教化活動広報事業

青少年の健全育成に関し、メディアに対して企画提案を行うとともに、DVDをはじめとする視聴覚教材について調査・研究・開発を行う。また、ホームページのリニューアルを適宜行い、多くの人に全青協の活動を広めるため一般メディア媒体等での広報活動に力をいれる。

① インターネットによる情報収集及び発信

インターネットを利用して青少幼年問題や活動者に関する情報を収集し、全青協の活動情報と合わせてホームページ、フェイスブック等各種ソーシャルメディアで情報の発信を行っていく。

② 『教化レーダーブック』『教化ブックレット』等の教化資料の発行

今日の青少年をめぐるさまざまな問題に対し、教化活動者の役に立つ情報・ノウハウをまとめ刊行する。

③ 「Web 現代名僧墨蹟展」の運営

伝統仏教各宗派管長、大本山貫首をはじめとする高僧・名僧、また、茶道家元ら文化人より寄せられた書画作品をホームページ上に掲載し、広く一般の人々が心の安らぎや豊かさを感得できるようにする。

2 公益活動推進事業

(1) てらネットEN関連事業の実施

不登校状態にある児童・生徒やひきこもり状態にある当事者及びその家族を支援する全国の寺院・団体をネットワークし、当事者の社会参加及び家族の精神的な安定を促す。平成26年度も引き続き、「親育」を主要なテーマとして事業を展開していく。

① 不登校・ひきこもり当事者の家族を対象とした親学セミナーの開催

ひきこもり当事者の家族を対象に、当事者との適切な接し方を学び、当事者に関わる問題（発達障害、精神疾患、公的扶助申請、生活設計等）を家族として正しく理解するためのセミナーを引き続き開催する。また、こうした課題を抱える家族相互の交流と分かち合いの場を併せて提供し、家族の心理的負担の軽減に努める。

②自助グループの運営及び就労支援プログラムの実施

不登校・ひきこもり・ニート状態で悩む当事者を対象に、社会復帰への橋渡しを目的に、人との関わりを持てる場所として、寺院における居場所を提供・運営し、寺院や全青協事務局及び協力企業等で軽作業に携わることを通じて就労へのきっかけ作りとしてもらう。

③相談窓口の設置・運営

不登校やひきこもり当事者、及びその家族等を対象とした電話相談・インターネット相談窓口及び面接相談室を運営する。また、加盟教団や全国の寺院における心の相談窓口の開設へ向けて、研修事業並びに現場作りを行う。

今後は、子どもを持つ家庭の貧困率上昇や近年の自殺者の増加傾向に伴い、貧困家庭児童および自死遺児支援プログラムに関して継続的に調査を行う。また、不登校やひきこもり、自死念慮、児童虐待、DV、発達障害ほか青少年や親等が直面する多様な問題に対して、仏教情操教育をベースに当事者をサポートする「子ども家庭支援センター（仮称）」の開設に向けて調査及び企画立案を行う。

④パンフレット・活動報告書・小冊子の配布

パンフレット・活動報告書・小冊子を全国の寺院・各種団体や施設等を通じて配布し、てらネットENの認知度を広めていくと共に、ネットワークへの参加を促進する。また、不登校やひきこもり、ニートについての正しい知識や対応についても紹介していく。

⑤参加寺院・団体連絡会議の開催

参加寺院・団体間の情報交換、相互連携、電話相談窓口の状況報告を目的とした連絡会議を開催する。

⑥寺院等における非営利・公益活動の補助・推進

寺院を核とし、青少年の居場所づくりと自立支援を目的とした寺子屋NPOプログラム（寺子屋づくりプログラム）についての公開講座、教育系NPO法人の活動調査、参考資料の発行、活動に対する支援等を行う。

(2) 「ぴっぱら国際児童基金」の運営

公益社団法人全日本仏教婦人連盟と共同で、インドをはじめとする途上国のスラムや路上で暮らす子どもたち、貧困のため教育を受けることが出来ない子どもたちを対象に、チャイルド・サポーター（里親）からの支援金を基にして、奨学金の支給、校舎の建設、栄養補給等の支援プログラムを推進する。また、日本の青少年と現地の子どもの交流を進めるほか、地震や津波などにより被災した国々において、現地のNGOと協働しながら、教育・福祉・自立の3点を主眼に継続的に支援を行っていく。

3 臨床仏教研究所運営事業

今日の社会情勢を踏まえて、ホリスティックな観点に立ちながら、家庭・学校・社会教育の現状を調査研究し、人間の情操に焦点をあてた教育や福祉のあり方について仏教界並びに一般社会に対し広く提言していく。また、現代社会において僧侶や宗教者が果たすべき役割や公益性の高い寺院の活動について探求し、「調査・分析」「プログラム開発」「研修」「コンサルティング」という4つの主要な柱を設け、活動していく。

(1) 臨床仏教師（臨床仏教カウンセラー）養成プログラムの実施

①座学課程（臨床仏教公開講座）

「臨床仏教」「児童虐待」「不登校・ひきこもり」「自死」「貧困」「ターミナルケア」「災害と仏教」等臨床的テーマを取り上げ、臨床仏教師養成プログラム「臨床仏教公開講座」（座学課程）を、毎週1回の頻度で全10回の連続公開講座として開催する。仏教精神に根ざした公益的な臨床現場を立ち上げ、活動する人員の育成を目指す。

②ワークショップ課程

座学課程で学んだ生死病死の「今」を踏まえたうえで、活動のベースとなる技法を基礎から体系的に学ぶワークショップを、隔週1回の頻度で開催する。現場において相手のところに深く寄り添い、また、自分自身が燃え尽きてしまうことのないケアのあり方を理解していく。

③OJT課程

ワークショップ課程を修了して審査を経た受講者が、臨床仏教師として活動するにあたり今後必要な方途を臨床現場で学ぶ。半年の期間内に100時間の実践研修を予定している。

※平成26年度は第1回臨床仏教師養成プログラムOJT課程を5月から、第2回臨床仏教師養成プログラム座学課程を10月から開催予定。

(2) 臨床仏教師（臨床仏教カウンセラー）資格認定制度の運営

教育・福祉・医療などの臨床現場において、仏教精神に基づいた心理的・精神的ケアを行うことのできる臨床仏教師（臨床仏教カウンセラー）の資格制度を設立し運営する。

4 出版事業

(1) 機関誌『ぴっぱら』の発行

青少幼年を取り巻く今日的な社会問題等を取り上げ、仏教的視点から問題提起を行い、解決への方途を提示する。また、一般読者の知識欲に応じられるような記事の提供に引き続いて力を入れる。寺院による青少幼年教化活動を紹介する欄等を通じて青少幼年教化活動者の時代に即した教化活動の参考に資する。

(2) 書籍・教材発行と調査及び研究、広報

①仏教行事にかかわる教材の発行

青少幼年向けに各種教材を発行する。花まつり関係では、花まつりシール、風船、ポスター、絵はがき、甘茶クッキー等の頒布。お盆関係ではリーフレット、共通教材として『ほとけさまのおしえ』等。

②関連図書の発行

教化資料として有益な書籍を随時刊行していく。

③書籍・教材の調査及び研究

青少年関係の出版物ならびに教材等を調査・研究し、今後の出版事業につないでいく。

④出版物・教材の広報活動

出版物は会員以外への普及を促進するべく、頒布活動に力を入れる。教材は成道会、お盆、花まつりをはじめとして、あらゆる機会を利用して、ダイレクトメール、チラシなどで広報する。

II 表彰事業（公益目的事業2）

1 「正力松太郎賞」の実施

仏教精神に基づき、長年にわたって青少幼年の宗教情操の育成に尽力して顕著な実績をあげ、今後も活躍が期待される個人・団体を顕彰する。また、若手の僧侶および活動者を対象として青年奨励賞を授与する。

(1) 「第38回正力松太郎賞」の選考会を3月4日（火）に開催、5月26日（月）に表彰を予定。

(2) 「第39回正力松太郎賞」は9月から12月15日まで公募。平成27年3月上旬に選考委員会を開催予定。

2 優秀表彰の実施

情操教育を目的とした書道・絵画等を通じ優秀な成績をおさめた児童・生徒への表彰を行う。また、青少幼年の健全育成に貢献した個人及び団体へ表彰する。

III 災害支援事業（公益目的事業3）

1 東日本大震災復興支援事業

平成23年3月11日に発生した東日本大震災における被災者支援として、平成26年度も引き続き、仙台事務所等を拠点として、物心両面での支援活動を行っていく。

①孤独死・自死を防止するための心のケアを行う人員を養成し派遣する。

メンタルケアについて講習を受けたボランティアスタッフを組織し、定期的に応急仮設住宅等において茶話会等を開催しながら、被災者の孤独死・自死防止に努める。

②巡回子ども会を通じて子どもたちの心身のケアを行う。

被災地の応急仮設住宅、幼稚園・保育園、学童保育を定期的に訪問し、子ども会を実施することによって被災した子どもたちのトラウマケアに当たると共に、運動を通じて身体的ケアに努める。

③「あおぞら奨学基金」を諸団体と協働して運営し、支援を必要とする生徒に対して奨学金を供与する。

公的な支援の狭間にあつて就学困難な状況にある被災地の高校生を対象に供与型の奨学金を支給し、それぞれの生徒が継続的かつ安定した就学環境を得ることに努める。

2 国内外緊急支援事業

国内外で起こるさまざまな災害に対応し、多様な方途によって災害緊急支援を行っていく。特に、被災地における子どもたちの健康・教育・自立支援を中心に、「ぴっぱら国際児童基金」を通じ、仏教系NGO等と協働しながら効果的な支援を行っていく。

IV 管理

1 組織の充実・拡充

理事教団を中心に加盟各教団の協力を仰ぎ、寺院を対象にダイレクトメール方式で幅広く入会を呼びかける。特に、全青協の運営を財政的に支援していただく賛助会員及び特別賛助会員を積極的に募っていく。加えて活動資金源の多様化を図るため、助成財団等の助成金の取得にも努めていく。

2 事務所移転

事業の効率化及び経費削減を目的として事務所を移転する。